

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|-------------------------|-----|----------------|
| ○事業所名 | 児童発達支援・放課後等デイサービス あびーちた | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和7年1月21日 | | ～ 令和7年2月14日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 24名 | (回答者数) 18名 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和7年2月24日 | | ～ 令和7年3月14日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 8名 | (回答者数) 8名 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和7年3月24日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|--|---|
| 1 | 支援プログラムが多岐にわたる。特に社会参加するための活動や体験が数多く取り込まれている。 | 一回だけ単発で終わることがなく、継続的に続けることで、利用児も慣れてくるといった効果や他児に教える、情報提供するなどして利用児同士のつながりや協調などの部分にもつなげることができている。 | 今後も継続的に様々なプログラムを提供していく。社会体験をするプログラムも多いが、普段のプログラムも重要と考える。平日の限られた時間でも1日1日のプログラムテーマを設定し、利用児がそのプログラムを体験・習得する機会を設定し、今後も継続して取り組んでいきたい。 |
| 2 | 日々の支援内容について、数多くのルールが設定されており、利用児にもわかりやすい構造化がされていると思われる。活動のルーティンが固定されていることで成果が得られやすい。 | 自由にすること、自己実現・自己表現することも大切であるが、社会生活をする上で、周囲と折り合う、相談する、協調することも大変重要になっている。日常からルールの設定があることで、普段から意識すること、何かに沿って対応することを体感することができる。 | 日々のルーティンにすることで、利用児自身取り組むことがスタンダードな状態だという場面を数多く作っていくことが大切と感じる。またスタッフとの信頼関係づくりをしなが、スタッフからの応援や励まし、ちょっとしたサポートで「乗り越えられた・やれた！」と言うような成功体験を繰り返すことで成長を促していきたい。 |
| 3 | 課題解決のための支援方法について、保護者との合意により、具体的の方針を定めること、また関係各所と連携すること、加えて本人に対するの伝達やフィードバックを適宜実施することができている。 | 当たり前のことではあるが、こちらの内容をきちんと実施することで成果を見ることが出来ている。また継続して続けていくことが重要と考える。 | 利用児・保護者を含めた関係機関とも、意思交換・情報交換を適宜実施することで、支援の方向性や打開策が展開できるように努めていく。より良い関係作り・密なコミュニケーションをしっかりと取っていきたい。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|--|
| 1 | 職員の専門性の向上 | 現状の利用児が発達障がい・自閉症・ADHDのお子さんが多く在籍しているが、今以上に深く障害特性を理解することで、適切な支援や保護者に対するの助言ができるようになる。また他の障害状況にも(例えば強度行動障害や医ケア児など)幅広い知見を得ることが必要と感じる。 | より良いサービスを行うためにも職員の質の向上、知識の獲得、様々な支援法、アプローチ法の学びが必要である。e-Learningにて学ぶ機会環境を整えること、短時間でも研修を実施して、職員同士で討議できる、お互いに意見するミーティングを年間計画で盛り込む。 |
| 2 | 保護者同士のつながり、交流について | 保護者からの意見でも必要ないとコメントをいただくことがあった。様々なお考えがあり、交流やつながりについての行いや意義について検討していきたい。また交流を望んでおられる保護者もいるかと思われる。機会提供した上で、また内容について検討していきたい。 | 目的や活動意図を周知した形で保護者会を実施してみる。 |
| 3 | 地域交流について | 地域でのつながりや連携について不十分さを感じる。自立支援協議会でも話題にもなるが、具体的には実施できていない。 | 2025年度に懸念にしているB型事業所との連携がある。その事業所は農業も仕事としているが、そこで農業体験をしてみてもどうかと提案をいただいた。そうしたつながりから地域とのつながりをもっていきたい。 |